

# 菊陽人 りさーち



さかもと ゆいと  
**坂本 唯人くん**  
(7歳・大堀木)

- 趣味  
算数をする事
- 将来の夢  
農家
- 自慢できること  
新しいポケモンをゲットしたこと
- 今一番やりたいこと  
サッカー

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。  
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



たかぎ ゆい  
**高木 柚依さん**  
(7歳・緑ヶ丘)

- 趣味  
縄跳び
- 将来の夢  
ピアノの先生
- 自慢できること  
足が速い
- 今一番やりたいこと  
料理をしたい

# ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声  
人権  
作文シリーズ  
【No.46】

◇印からの文章は先生のコメントです。

問い合わせ  
人権教育・啓発課  
☎232-2113

◆人権標語  
「きめつけず 理由をきいて なかなかおり」 菊陽南小学校 1年 中原あきほ 望晶ありさ  
「気付こうよ すぐ近くにある 心の声」 武蔵ヶ丘中学校2年 神田有彩

## おもったこと

武蔵ヶ丘小学校1年 山口 まほ

わたしは、にゆうがくしたところ、だれもあそぶともだちがいまませんでした。さみしかったから、みんながあそんでいるところをみて、わたしは、「じいちゃんあそぼう。」と、いきました。「うーん。」といわれて、うれしかったです。ともだちとあそぶとたのしいです。◇「じいちゃんあそぼう。」ってすごいことですね。自分から言えて、すばらしいです。友だちと遊ぶと楽しいね。



▲ともだちとあそぶとたのしいよ

## せいじいじいがんばれば

菊陽南小学校3年 歩濱あおい 碧

私たちの学級では、女の人と男の人のちがいにいって勉強しました。はじめに、「女の人のしかできないこと」と、「男の人にしかできないこと」をみんなで出し合いました。私はスカー

トを身につけられるのは女の人だけだと思っていました。でも、たとえばスコットランドという国では、男の人でもキルトというスカートのような服を着ることが分りました。



▲3年生 授業風景

わたしは、「女の人だから」、「男の人だから」という言い方はあまりしないほうがいいと思います。なぜなら、よく考えてみると、「女の人だけができる」、「男の人だけができる」ということはとても少ないからです。「女だから」、「男だから」ではなく、自分のできることをせいじいばい頑張りということが大切ですね。自分の中にある決めつけた見方や考え方に気づいていけるように、私自身も勉強していきたいです。

◇勉強では、女の人と男の人の違いや役割についてみんなで考えました。「女だから」「男だから」ではなく、自分のできることをせいじいばいに頑張るといことが大切ですね。自分の中にある決めつけた見方や考え方に気づいていけるように、私自身も勉強していきたいです。

## 人権啓発標語

- ◇うつつそうよ  
気づいているなら行動に  
武蔵ヶ丘中学校2年 藤田 采希
- ◇君は一人じゃない  
必ず誰かが支えてくれる  
今はまだ気づけないかもしれないけど  
必ずわかる時がくる  
菊陽中学校2年 尾崎 由依
- ◇おかしこと  
思ったときに声出そう  
それははじめをなくせる一歩  
菊陽南小学校6年 山口 なお
- ◇くり返すな  
戦争という名のあやまちを  
武蔵ヶ丘小学校6年 山口 裕也
- ◇みんなでね  
人権学び 作ろうよ  
きつとできるよ 平和な世界  
菊陽中部小学校5年 藤田 真鈴
- ◇「いけないよ」  
それを言うのが本当の友だち  
菊陽西小学校6年 宇野 旭
- ◇前のぼくをかえる！  
悪口を言わず 差別をしない  
菊陽北小学校5年 屋成 広晴
- ◇周りの人だけではなく  
自分の行動を確かめよう  
武蔵ヶ丘北小学校5年 大石 百華

## きくよう文芸

### 菊陽句会報

異国語の飛び交ふ秋の金閣寺	坂本百合子	冬菊やマンシヨン乱立地蔵様	井上久美子
落葉踏むわが足音と夕やけて	田中 郁子	初雪に戸惑ふ阿蘇の観光客	宮川ユキエ
初時雨気丈な母を抱きしむる	井 子文	木枯らしや風のざわめき眼で聴きて	日高 妙子
白菜のずしりと腕に地産物	財津 早雪	熱燗や肴は孫の良き知せ	曾我 育代
澄みし香よ終小花のほのかにも	原野レイ子	選り分けの人参拾ふ夕厨	曾我トモ子
華やきの刻短くて枯木道	力 幸子	踏切事故お地蔵さんにしぐれけり	紫藤 祥子
朝食に湯豆腐もあり旅の宿	寺尾千代子	受験子に夜更けの御薄老婆心	村上 朋子
初雪や逢ひたき人と今ここに	高橋 孝子	泡一つ鯉も呟く池小春	野口 令史
まぶしきや光まどひて柿のれん	堀川 妙子	一に孫二に妻が好き年暮るる	松橋 強
空港のあわただしきよ年の暮	福田 貴子	城跡から紅葉に染まる山谷川	小中 栄
クリスマス今年はくるかなプレゼント	佐藤 健	風と来し落葉と会話山の窪	藤本 純子
この苑の最高齢とや敬老日	佐藤 節	園庭や銀杏落葉に転ぶ子等	佐藤 澄世
民宿の切干料理母の味	吉野 早苗		

### 短歌会

雪雲の覆へる年の暮れにして吾が急かされて白菜漬ける  
年末に収穫予定のハウレンソウ寒さ続きて手のひらに満たず  
わが供養の膳はゆたかにしてくれと友はベッドで呵呵と笑ひぬ  
夕の日は流るる川面を照らしたり鴨は群れなし鳴き騒ぐなり  
公園の落ち葉の色はさまざまに歩みて拾う黄色き一葉  
里へ行く山沿いの道はあちこちに凍結注意の立札のあり  
吾が庭の落ち葉を隅に集むれば枝々を渡る四十雀の影  
青き実を竹鉄砲に詰め遊ぶかの日のことも速くなりしか

今村 貞子  
梅田 國雄  
河北 幸一  
菊川あさみ  
佐藤せい子  
下田 久子  
中村トシエ  
山川 カヅ